

で参
んな
み靖

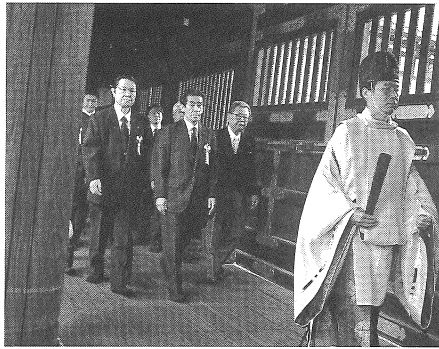
七十九回目の終戦の日

参拝者減少傾向に危機感

79回目の終戦の日を迎えた8月15日、超党派の議員連盟「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」121人が揃って昇殿参拝した。同日、岸田内閣の3閣僚が参拝したが、依然として同議連の参拝者数は著しい減少傾向にあり、戦没者遺族の精神的支柱である靖国神社の存在が形骸化されかねない由々しき事態となっている。

8月15日、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」は、自由民主党・日本維新の会などの衆・参国會議員121人(議員本人78人、代理43人)が揃って参拝し、日本遺族会を代表して水落敬栄会長が一緒に参拝した。参拝した国會議員のうち3人が副大臣、7人が政務官だった。

また同日、新藤義孝経済再生担当大臣、木原稔防衛大臣、高市早苗経済安全保障担当大臣の三閣僚が参拝した。一方、岸田文雄総理は参拝せず、代理人を通じて私費で玉串料を納めた。



昇殿参拝に向かう「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」と水落敬栄本会会長(右端) = 8月15日、靖国神社

同議連副会長の逢沢一郎衆議院議員は参拝後の記者会見で「戦争の記憶や記録が風化するのではないよう、日本遺族会を中心に語り部事業を推進しているが、その意味や意義の深さ、尊さを国民の皆様にもしっかりと理解いただき、これからの国造りに資してまいりたい」と、平和の語り部事業の重要性を強調した。

このまま、同議連の参拝者が減少する状況が続くようであれば、靖国神社の存在が形骸化され、新たな国立の戦没者追悼施設の建設構想が再燃しかねない。国民を代表する国會議員が一人でも多く靖国神社に参拝するよう、靖国神社の参拝の意義について粘り強く説明し、秋季例大祭の参拝者増を目指す。さらには終戦80年に向けて本部支部が一丸となって、陳情運動を展開する。

アッツ島を16年振りに調査 戦没者遺骨収集事業

日本戦没者遺骨収集推進協会は、8月15日から31日の期間でアッツ島等現地調査派遣を実施し、本会からアッツ島の戦没者遺族3人が参加協力した。



地権者の許可を得て試掘し、推定2柱を収容 = 8月22日、アッツ島熱田川左岸墓地

アッツ島は、昭和17年6月に日本軍が占領した。翌18年5月に1万人の米軍が上陸し、激しい戦闘の後、日本兵約2600人が戦死している。「玉碎の島」である。厚生労働省がアッツ島で遺骨収集を実施したのは昭和28年7月の1回ののみで、約3200柱を収容している。その後、平成19、20年に現地調査を行ったが遺骨は収容されなかった。

未だに2000柱以上の遺骨が残されたままのアッツ島は、現在は米国領の無人島で、自然保護区に指定されており、気候条件も厳しい。今回の現地調査は、米国魚類野生生物局(USFWS)に協力を得て、16年振りに実施された。

派遣団はアンカレッジを経由してアリューシャン列島アグック島に入り、USFWSの調査船に便乗し、船内に宿泊しながら4日間にわたりアッツ島内の熱田川左岸墓地、小沼墓地、大沼墓地、雀が丘墓地を踏査し、測位、計測して現場の状況を詳細に記録した。また、アリュート会社が所有する地域である熱田川左岸墓地については同社から許可を得て掘削を行い、推定2柱を収容した。収容した遺骨は在ファンカレッジ領事務所所に一時安置した。今回の調査で、遺族の悲願であったアッツ島での遺骨収集が大きく前進する一歩となった。

- 秋葉賢也、石井拓、石川昭政、石原正敏、井上信治、衛藤征士郎、大串正樹、大塚拓、大西英男、小倉将信、尾崎正直、梶山弘志、加藤勝信、川崎ひとと、岸信十世、木原稔、櫻田義孝、新谷正義、鈴木英敏、瀬戸隆一、高木啓、高島修一、武村展英、田中良生、田村憲久、渡海紀三朗、中川郁子、長坂康正、中谷元、中野英幸、根本幸典、長谷川淳一、平井卓也、平沼正二郎、古川直孝、細田健一、三ツ林裕巳、武藤谷治、保岡宏武、山口俊一、山田美樹、山本有一(日本維新の会)、青柳仁志、小野泰輔、高橋英明、堀井健智、三木圭恵、岬麻紀、和田有一朗

- 参議院 聖子、堀井巖、松川るい、赤池誠章、有村治子、石井正弘、磯崎仁彦、白井正一、衛藤晟一、梶原大介、北村経夫、佐藤啓、佐藤信秋、佐藤正久、山東昭子、豊田俊郎、橋本 鈴木宗男、浜田聡



参拝後の記者会見で質問に答える逢沢一郎副会長(左)と佐藤正久事務局長 = 8月15日、靖国会館で

慰霊大祭を斎行 英霊にこたえる会

英霊にこたえる会主催の「第49回全国戦没者慰霊大祭」が8月15日、午前9時から靖国神社拝堂及び本殿で斎行された。昨年同様本年度も制限の海上・航空幕僚長(各代表)が参列した。



祭文を奏上する古庄幸一英霊にこたえる会会長 = 8月15日、靖国神社

今後の平和の語り部事業 常務理事会で審議

9月6日常務理事会が開催され、戦後80年にむけた平和の語り部事業の計画が審議された。(詳細は本紙10月号に掲載)

広報室からは、戦後80年の機会を捉え、同事業の更なる普及、拡大を図るとともに、恒久平和を希求する遺族会の活動を広く報じ、意義を高めるため、本部支部一体となって連年わたる切れ目なく各種企画を実施することが提案された。

具体的には、令和7年2月の本会総評を皮切りに、5月から8月までの全国企画、学生との語り部、6月の海上慰霊、9月から11月目途のプロット語り部大会など、すべて戦争体験者の遺族と次世代青年部が揃って記憶の伝承に取り組む企画となっている。同事業を継続的に実施するため、青年部組織の強化策も併せて提案され、内容は9月からの各ブロック会議で共有し、意見を集約する予定である。

理、中央参加団体代表など約70人が参列した。大祭は国歌斉唱、修祓、献饗に続いて、斎主の祝詞奏上、そして、古庄幸一英霊にこたえる会会長が祭文を奏上した。祭文では、遺族や戦友など関係者の高齢化による同会を取り巻く厳しい状況に対し、「時代背景に応じた意識改革と若い世代を取り込んだ新しい活動の必要性」が示され、「会員と心を一つにし、目標達成のために邁進する」と力強い決意が表明された。その後は、参列者全員が拝殿から本殿へと進み玉串拝礼を行った。

慰霊大祭には本会を含む関係団体より供花が供えられた。

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

- 賛同者名(敬称略)：カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等
- 毛利曜美、木下路也、コ

ミヤンマー小学校修繕募金のお願い

ミヤンマー小学校修繕募金にご賛同いただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

賛同者名(敬称略)：カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等

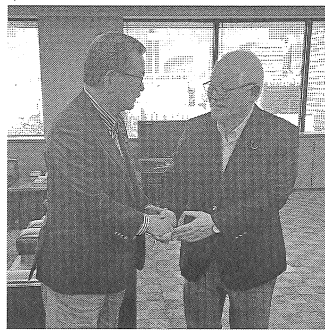
シガマサキ(以上)、8月1日から8月末日まで

なお、ミヤンマー国内の政治情勢が不安定なため、渡航が制限されていますが、旅行社等を通じて小学校の校舎の状況を、渡航可能な状況で収集し、渡航が可能なよう次第、小学校の修繕の支援を始める予定です。

令和7年度 遺族処遇改善項目

1 慰給費	553億円
厚生労働省関係	
1 援護年金	27億円
2 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金等の支給(事務費)	13億円
3 遺骨収集事業等の推進	34億円
(1) 遺骨収集事業	
・ 硫黄島における遺骨収集事業	13億円
・ 海外等における遺骨収集事業	11億円
・ 法人運営経費	1億6,000万円
(2) 海外公文書館の資料収集	1,900万円
(3) 遺骨の鑑定	
・ 手掛かり情報のない戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定	3億4,000万円
・ 戦没者遺骨の鑑定技術の研究・実用化検討	3億2,000万円
・ 分析施設(ラボ)における鑑定実施	1億5,000万円
・ 会議開催経費・事務費等	600万円
(4) 遺骨・遺留品の伝達	5,100万円
うち、戦没者等の遺留品の返還に伴う調査一式	1,700万円
4 戦没者慰霊事業等	9億1,000万円
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	2億1,000万円
(2) 慰霊巡拝等	
・ 慰霊巡拝	1億3,000万円
・ 政府建立慰霊碑の補修等	5,900万円
・ 海外・国内民間慰霊碑の調査・移設等	
海外・国内民間建立慰霊碑調査等	4,100万円
国内民間建立慰霊碑の移設等(自治体補助)	1,800万円
・ 慰霊友好親善事業	3億9,000万円
・ 平和の語り部事業	5,500万円
5 昭和館事業	9億8,000万円
・ 運営経費・事業経費	4億9,000万円
・ 昭和館施設整備経費	4億8,000万円

※ 百万円単位で四捨五入している。



本会の要望について武見敬三厚生労働大臣に陳情する水落敏栄本会会長(左)と、厚生労働省大臣室で

政府が概算要求を公表

本会の重点要望事項予算計上

8月30日、来年度政府予算の概算要求が公表され、本会の重点項目はいずれも計上された。特別弔慰金はもとより、悲願である洋上慰霊、中でも倍増以上となった平和の語り部は遺族会の活動と社会的意義が認められた証左であり、「かつてない大型陳情」が功を奏した。今後本予算獲得に向け、本部支部一丸となり陳情を展開する。

令和7年度政府予算の概算要求が8月30日に公表された。本会の要望は10項目と増額、②戦争の悲愴さ、③戦没者の悲愴さ、④戦争の悲愴さ、⑤戦争の悲愴さ、⑥戦争の悲愴さ、⑦戦争の悲愴さ、⑧戦争の悲愴さ、⑨戦争の悲愴さ、⑩戦争の悲愴さ。

平和の尊さを伝える「平和の語り部事業」の拡充強化、③海に鎮まる30万の御霊に慰霊を捧げる洋上慰霊の実現(遺児慰霊友好親善事業の充実)として、大規模予算要求に対し、本会水落敏栄会長は「かつてない陳情運動を展開する」と表明し、要望貫徹を目指し、今春から厚労省総務省、財務省等、関係各省の大臣及び幹部に説明を重ねてきた。総決算として7月末には自民党遺族会応援団で

令和7年度 船舶借上げ費が予算計上

洋上慰霊参加者募集

本会が厚生労働省から補助を受け平成3年度から実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、終戦80年及び事業実施35周年を迎える令和7年度に洋上慰霊の実施に向けて、参加者の募集を開始している。8月30日、政府は令和7年度政府予算の概算要求を公表し、同事業について大型船舶の借上げ費を含む洋上慰霊の経費が計上された。



船上から亡き父が眠る海へ花を手向る団員 =平成28年3月、洋上慰霊で

に説明、要望したことは既報の通りである。今回、本会の要望が反映され、重点3項目を含むほぼ全てで増額計上となった。特記事項は特用継続のための支給事務費の計上。また、高額となる大型船舶借上げが認められた遺児慰霊友好親善事業洋上慰霊、中でも平和の語り部事業に本年度予算の倍増以上となる5500万円が計上されたことだ。

終戦80年の節目に本会が目指す方向性「戦争の記憶を伝承し、平和を問いつける」姿勢が認められたものと考えられる。また、国内外の民間建

ある議員連盟「遺家族議員協議会」総会、全国戦没者遺族代表者会議を2日間にわたり開催。国会閉会中にもかかわらず、関係・党幹部、多くの国会議員の参集を得て、大いに声援を受け、終了後各支部代表者は、関係や地元選出国会議員へ丁寧

立慰霊碑の調査費が大幅増額したことの意味は大きい。一部の調査の末、平成28年度から移設等に補助額が創設されたが、補助額などにより利用は伸びていない。特にここ10年、支部からは慰霊碑の状況は待ったなく「悲愴な訴えが多く寄せられ、多くの議員から後押しする声寄せられた結果、調査費と共に移設、増設、補修等の補助額が増額計上されたこと考えられる。

今後は本予算獲得に向け、要望の必要性と、委託・補助事業に込められる団体と示すべく、本部支部一丸となった陳情を展開する。

付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1の補助が受けられる。戦争の悲愴さ、平和の尊さを伝承するため、計画概要参照。

参加資格 戦没者の遺児、周辺海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る。申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。申込締切日 令和7年1月末日

化に伴い参加者が減少しているため、令和7年度をもって終了する事とし、かねてから要望の多かった、大型船舶の借上げに於いて、今年度の実施期間を決定した。本洋上慰霊は、海に鎮まる30万の御霊の慰霊を行うと共に、旧戦域の方々と友好親善を目的とする。加えて、遺児の記憶を次世代へ伝承する(語り部として)意識を醸成する機会として青年部の参加が望まれる。

付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1の補助があり、この機会に一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。募集要項は次の通り。

参加資格 父等を海で亡くされた戦没者の遺児で前年度の事業に参加していない者(但し、前年度参加者であっても付添者で青年部が同行する場合は参加を認める)。実施地域は洋上以外にフィリピン諸島を含んでおり、定員に満たな

慰霊友好親善事業 実施計画表

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 台湾・パシシー海峡	令和7年 1月17日~1月23日	40人	11月15日
2 西部ニューギニア(特定地域)	令和7年 2月3日~2月12日	36人	12月3日
3 東部ニューギニア(特定地域)	令和7年 2月14日~2月21日	36人	12月13日
4 タイ(特定地域)	令和7年 2月20日~2月27日	36人	12月20日
5 ギルバート諸島	令和7年 2月28日~3月8日	20人	12月25日
6 マーシャル諸島	令和7年 3月1日~3月9日	20人	②11月1日
7 フィリピン(2次)	令和7年 3月11日~3月18日	120人	1月10日
8 中国	令和7年 3月21日~3月29日	80人	1月20日

②申込締切日が実施時期の4カ月前なのでご注意ください。

好意 遺児の参加者募集

事業終了迫る

日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和6年度の参加者を募集する。本事業は令和7年度に終了することし、終戦80年及び事業実施35周年を記念し国に要望している洋上慰霊の実施が実現した場合は、令和7年度は洋上慰霊とフィリピン地域のみに実施する予定にしており、他の旧戦域は本年度で最後の実施となる。

参加資格 戦没者の遺児、周辺海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る。申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。申込締切日 令和7年1月末日

募集要項は次の通り。参加資格 戦没者の遺児、周辺海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る。申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。申込締切日 令和7年1月末日

ネット動画共有サービスに、過去の写真、動画により作成した本事業の広報用動画を配信する予定。

募集要項は次の通り。参加資格 戦没者の遺児、周辺海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る。申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。申込締切日 令和7年1月末日

女性部結成70周年を迎え

平和の語り部研修会を企画

昭和23年の結成から70周年を迎える本会女性部は、12月に平和の語り部研修会を実施する。研修の主題はより多くの活動者を育成することとし、香川県観音寺市遺族連合会の取組に倣った自身の記憶と向き合う座談会を計画。この他、遺児、青年部それぞれの語り部が披露される。戦後80年直前の取組として報道各社に情報提供する予定。

日本遺族会婦人部の活動の歴史は、まさに本会の歴史である。20代から30代前半の若さで愛する夫を失い、老親と幼子を育てるため、昼夜問わず働き続ける中で、同じ境遇の戦没者の妻が手をとり、戦没者の名誉回復と恒久平和な社会の構築を目標とした奮闘が、現在の遺族会活動の骨格を作ったことは言までもない。そして平成18年、戦没者の妻で結成した婦人部は、次世代育成を目的に、女性遺児やその配偶者等で作る組織とし、名称も女性部と改名、現在は女性遺児を中心に、戦没者の子孫等の女性が加わり、組織継承の中心的役割を担っている。

そこで、婦人部、女性部の歩みを学び、恒久平和な社会を希求する活動者となるべく「日本遺族会女性部平和の語り部研修会」を開催する。

本会は、今年度から新規補助事業となった平和の語り部を今後の遺族会活動の主軸とするため、現在全国47支部の協力を得て実施している。

終戦80年となる来年は、同事業の更なる普及拡大を目指し、通年に亘り切れ目ない企画を本部支部一体で展開する予定。そのため、まずは国民の1割となった戦争体験者の貴重な記憶を残すため、より多くの体験者の記憶を記録する必要がある。

そこで、体験者である多くの遺族が自身の記憶に向き合い、一端を伝える活動者となる取組として、「自分史」をつくる座談会を実施する。

「自分史」とは香川県観音寺市遺族連合会女性部が平成23年から2年間にかけて取組んだ企画。戦争の記憶の風化を危惧し、遺児の記憶を次世代へ伝える語り部の育成を結成。女性部員が自身の体験を語り合うことから始めた。大平宮子部長を中心に聞き取り、その後アンケートを実施、概要をまとめ、子供たちに

分かりやすく伝えるため紙芝居製作を模索。地元紙の造形画家と企業、女子短大等の協力を得て、最終的に紙芝居とDVDとして具現化した。

当研修会は、女性部一人一人が活動者となることを目的とし、自身の記憶に向き合う機会とする。そのため、本部より事前アンケートが実施される。

愛しき花の

陸軍一等兵 木村進

昭和十九年九月十三日
第五十八師団野戦病院にて戦病死
大分県大分郡吉野村出身 三十五歳

残暑尚厳しい折柄、御両親始め皆様お達者でせうか。お盆も過ぎて、やがて稲穂に風流の秋が来ますね。折に触れて内地のことが懐しく思ひ出されます。お前も元気だらうね。それに赤ん坊のことを知りたいと思ひますが、今まで便り出来ませんでした。

僕は其の後も大元気で、戦闘や行軍や第一線の皇軍の一員として、緊張した日々を送って居ります。当地の夏の暑さも内地と殆ど変わりなく、気候の点では心配なく渡いで行けます。稲は内地よりずっと早く、もう刈入れを始め居ります。世界の情勢が如何に変わって行っても、我々皇國軍人として一重聖戦の完遂に懸命の努力をします。色々変わった経験を重ねて嬉しい軍人になります。津久見の方や近所の方達によろしく。では皆さんお達者に。

中支派遣遺族第七三三三部隊大島隊
木村進

【令和六年九月靖国神社頭掲示】
愛しきものへ

九段短歌

作者 佐藤 作
お寄せください

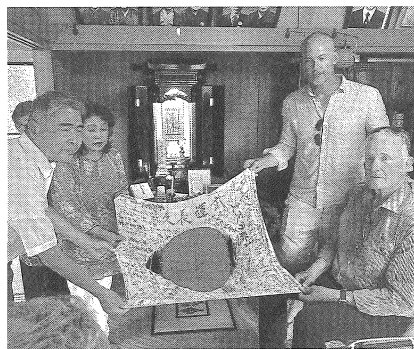
たわわなる真つ赤なりんごみどりこのわれに父は種
えて往なき
青森県 田中 恭子
戦死の報握りしめ聞く終戦を吾を背おいて伏して泣い
たと
福島県 柴田 征子
貴くは無指一筋の父の生き様向き合せて慰霊の子
東京都 木村白百合

ガリ刷りの会葬礼状の喪主は母読むたが父の戦死動
命日は七月二十日朝四時五分父はマラリヤで逝く戦陣
日記
長野県 堀川 篤子
終戦から七十九年の時を経て父の顔知らず七十九才
滋賀県 雨森 貴子

寄せ書きの丸遺族のもとへ

福島県、鳥取県で

戦没者の遺留品返還に伴う調査事業で、福島県と鳥取県で日章旗が遺



日章旗を広げる斎藤さん家族とロブソンさん親子
=7月27日、二本松市で

補充兵の一員なりき選り待つ若き妻への戦死の便り
病院まであとに千歩が大雨の中頑張っています八十
三才
熊本県 高木 容子
長崎県 富永八重子

丸遺族を過ぎたといえまたまた暑さが続いておりま
す。昨今、皆様お変わりはないかもしれませんが、パ
リ・オリンピックで日本人選手による各競技での活
躍は欣喜奮躍の十七日間ございました。オリンピック
にとってメダル獲得が究極の目標ではありませんが、
勝負の世界とはある意味大変非情なものです。嬉し
い涙も悔しい涙も必ずや四年後に向けた新たなスタ
ートの糧となることでしょう。戦後七十九年、数々の
苦勞を乗り越えてこられた皆様方には、心からの金メ
ダルを贈りたい気持ちでいっぱいです。



日章旗を受け取り、謝辞を述べる火山司さん
=8月25日、日南町役場で

遺児、青年部女性会員の代表が参集する。この他、同事業の多様な活動を研修するため、研修会で座談会を展開する。研修会には全国より

が保管している日章旗の遺族を捜索してほしいと本会に依頼があり、日章旗は昭和20年8月10日にフイリン・ルンソン島で戦没された福島県安達郡(現在の二本松市)出身の斎藤孝道さんのものであることが分り、11月にアメリカの保管者から本会へ郵送され、二本松市遺族連合会の調査で判明した孝道さんの甥の勇さんのもとへ届けられた。

OBONサンエティから本会に調査依頼があった日章旗の持ち主が、鳥取県日南町出身で、昭和20年8月17日、旧満洲の中国奉天省で戦没した火山行一さん(享年23歳)のものであることが分かった。

から、本会に連絡があり、今回の返還に至った。ぜひ日本に来て遺族に会いたいという意向で来日したロブソンさん親子は、7月27日、二本松市役所を訪れ、斎藤源次郎二松松市副市長、斎藤徳仁二松松市遺族連合会会長、長から出迎えられ、斎藤家の家族と対面した。その後、斎藤家の墓をお参りし、花を手向け、孝道さんの冥福を祈った。

各支部で実施された研修会は次のとおり。
▼秋田県 6月4日
令和6年度一般財団法人秋田県遺族連合会第十二回評議員会(46人)
▼富山県 6月4日
令和6年度「公益の塔」慰霊祭(30人)
▼石川県 6月14日
令和6年度石川県遺族連合会女性部研修会(49人)
▼岩手県 6月24日
令和6年度岩手県遺族連合会研修会(150人)
▼神奈川県 6月25日
第9回神奈川県遺族連合会代表者会議(60人)
▼山口県 7月21日
令和6年度山口県戦没者遺族大会(200人)

